平成23年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

馬越遺跡周辺地

元狭口遺跡

中沢遺跡

鬼倉遺跡

丸山遺跡

花立遺跡

舞台遺跡

たて屋敷遺跡周辺地

太田遺跡

横江遺跡

2012

新潟県加茂市教育委員会

平成23年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

馬越遺跡周辺地

元狭口遺跡

中 沢 遺 跡

鬼 倉 遺 跡

丸 山 遺 跡

花 立 遺 跡

舞 台 遺 跡

たて屋敷遺跡周辺地

太 田 遺 跡

横 江 遺 跡

2012

新潟県加茂市教育委員会

序

清流加茂川を中心とし山紫水明に恵まれた「北越の小京都」加茂市には、豊かな歴史が育まれています。約２万年前に遡る旧石器時代や縄文時代の遺跡が加茂川上流部に多く見られ、加茂川下流域や下条川流域には古墳時代～平安時代の遺跡が多く発見されています。先人達の足跡は埋蔵文化財と呼ばれるように、地下に眠っています。

しかし、時として現代の私たちは様々な開発事業を計画する中で、埋蔵文化財との関わりは避けることができません。現在加茂市では、約 180 ヵ所で埋蔵文化財包蔵地が登録されており、様々な開発事業と文化財保護との調整を行っています。平成 23 年度には、本書で報告する８遺跡と２遺跡周辺地において、開発事業と文化財保護との調整を行うための試掘・確認調査及び分布調査を行いました。小規模な調査が多く、成果は大きなものではありませんが、ひとつひとつの調査は各地域における歴史の記録として今後活かされていくものでしょう。私たちは、わずかでも貴重な文化財を大切に保存し、後世に伝え、郷土の歴史を明らかにする責務があると思います。

このたび、確認調査報告書を刊行するにあたって、本書が当地域の学術・研究資料として多くの皆様に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護思想が深まれば、この上なく幸せであります。

最後に、発掘調査に対して様々なご指導とご協力を頂いた新潟県教育庁文化行政課、並びに発掘調査に参加された地元の方々、地権者及び工事関係者に対し、ここに深甚なる謝意を表する次第であります。

平成 24 年 11 月

加茂市教育委員会

教育長　殖　栗　敏　夫

例　　言

1　本報告書は、平成 23 年度に新潟県加茂市内の各種開発に伴い実施した 8 遺跡、2 遺跡周辺地における試掘・確認調査及び分布調査の記録である。

2　調査は馬越遺跡周辺地・元狭口遺跡・中沢遺跡が道路建設工事、鬼倉遺跡が排水路改良工事、丸山遺跡が災害復旧工事、花立遺跡・舞台遺跡が下水道工事、たて屋敷遺跡周辺地が民間開発、太田遺跡・横江遺跡が分布調査に伴い実施したものである。

3　試掘・確認調査の経費は、国庫及び県費（一部を除く）の補助金交付を受けた。

4　調査は加茂市教育委員会が主体となり実施した。調査体制は以下の通りである。

調査主体	加茂市教育委員会	教育長	井上　信二（平成23年9月30日まで）
			殖栗　敏夫（平成24年4月1日から）
	教育長職務代理者	庶務課長	佐藤　健一（平成23年10月1日～平成24年3月31日）
総括		社会教育課長	金子　正文
庶務		社会教育課主査	石井美代子
調査担当		社会教育課係長	伊藤　秀和
現場作業員	相田英一・石田　卓・金子貞雄・坂上勝利・坂上鈴一・坂上良栄・志田重太郎・鈴木秀夫・千葉泰行・中川賢一・長沢孝作・中澤康行・波塚　斂・松田重信・西潟龍治・西村冬彦（社団法人加茂市シルバー人材センター会員）		
整理作業員	櫻井恵美子・前崎朋子		

5　調査記録図面・写真類、出土遺物は一括して加茂市教育委員会が保管している。

6　本書で示す方位は全て真北である。

7　挿図に使用した既存図面については、その出典を記した。

8　本書に掲載した遺物は各遺跡の種別毎に通し番号を付し、本文及び観察表・挿図図面・写真図版の番号はすべて同一としている。

9　写真図版 6・8・10 の空中写真は（株）オリスが平成 3 年 11 月に撮影した縮尺約 1/12,500 × 82%、写真図版 9 の空中写真は（株）オリスが平成 6 年 7 月に撮影した縮尺約 1/8,000 × 82%のものを使用している。

10　引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔　〕で文中に示し、巻末に一括して掲載している。

11　本報告書の執筆は、第Ⅳ章-2-（2）及び第Ⅶ章-2 については、立木宏明氏（加茂市史編集委員）から執筆頂いた。丸山遺跡出土遺物の実測図作成、トレースについても立木氏にお願いした。その他の執筆と編集は伊藤秀和が行った。

12　挿図、写真図版の版組み及び全体のデジタル編集・データ化は、（有）不二出版に委託した。

13　遺物の写真は、文殊堂の渡辺康文氏から撮影頂いた。

14　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏から多大な御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。（敬称省略・五十音順、機関などは順不同）

池野芳雄・小熊博史・尾崎高宏・春日真実・滝沢規朗・立木宏明・土橋由理子・細野高伯・堀川正美

（社）加茂市シルバー人材センター・（株）勝喜産業・（株）シダチョー建設・（株）堀内組

（株）渡辺建材・（株）涌井建設工業・（株）フロンテイア・熊倉組・加茂郷土地改良区

加茂市建設課・新潟県教育庁文化行政課・新潟県三条地域振興局・加茂市文化財調査審議会

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　平成 23 年度事業の概要 …… 1

2　遺跡の位置と環境 …… 2

第Ⅱ章　道路建設工事関連 …… 3

1　調査に至る経緯 …… 3

2　馬越遺跡周辺地 …… 3

（1）調査対象地と試掘調査の概要 …… 3　（2）層　序 …… 4
（3）遺構と遺物 …… 4　（4）調査のまとめ …… 4

3　元狭口遺跡 …… 5

（1）遺跡と確認調査の概要 …… 5　（2）層　序 …… 5
（3）遺構と遺物 …… 5　（4）調査のまとめ …… 5

4　中 沢 遺 跡 …… 6

（1）遺跡と確認調査の概要 …… 6　（2）層　序 …… 7
（3）遺構と遺物 …… 7　（4）調査のまとめ …… 7

第Ⅲ章　農業基盤整備事業関連 …… 8

1　調査に至る経緯 …… 8

2　鬼 倉 遺 跡 …… 8

（1）遺跡と確認調査の概要 …… 8　（2）層　序 …… 10
（3）遺構と遺物 …… 10　（4）調査のまとめ …… 10

第Ⅳ章　災害復旧工事関連 …… 11

1　調査に至る経緯 …… 11

2　丸 山 遺 跡 …… 11

（1）遺跡と立会い調査の概要 …… 11　（2）遺　物 …… 12
（3）調査のまとめ …… 12

第Ⅴ章　公共下水道工事関連 …… 13

1　調査に至る経緯 …… 13

2　花 立 遺 跡 …… 13

（1）遺跡と立会い調査の概要 …… 13　（2）遺跡と遺物 …… 14
（3）調査のまとめ …… 14

3　舞 台 遺 跡 …… 15

（1）遺跡と立会い調査の概要 …… 15　（2）遺跡と遺物 …… 15
（3）調査のまとめ …… 15

第Ⅵ章　民間開発関連 …… 16
1　調査に至る経緯 …… 16
2　たて屋敷遺跡周辺地 …… 16
（1）遺跡と試掘調査の概要 …… 16　（2）層　序 …… 17
（3）遺構と遺物 …… 17　（4）調査のまとめ …… 17
第Ⅶ章　分 布 調 査 …… 18
1　調査に至る経緯 …… 18
2　太田遺跡・横江遺跡 …… 18
（1）遺跡と分布調査の概要 …… 18　（2）遺　物 …… 19
（3）調査のまとめ …… 19
第Ⅷ章　ま　と　め …… 20
1　平成 23 年度調査成果について …… 20
2　丸山遺跡出土の尖頭器について …… 20

《引用・参考文献》 …… 21
《別　表》 …… 22
1　花立遺跡・太田遺跡・横江遺跡土器観察表 …… 22
2　丸山遺跡石器観察表 …… 22
《報告書抄録》 …… 巻末

挿 図 目 次

第 1 図　調査対象遺跡・地区位置図 …… 2
第 2 図　馬越遺跡推定範囲と調査対象地位置図 …… 4
第 3 図　馬越遺跡周辺地試掘調査トレンチ位置図 …… 4
第 4 図　馬越遺跡周辺地試掘調査トレンチ土層柱状図 …… 4
第 5 図　元狭口遺跡推定範囲と調査対象地位置図 …… 5
第 6 図　元狭口遺跡確認調査トレンチ位置図 …… 5
第 7 図　元狭口遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 …… 5
第 8 図　中沢遺跡推定範囲と調査対象地位置図 …… 6
第 9 図　中沢遺跡確認調査トレンチ位置図 …… 7
第 10 図　中沢遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 …… 7
第 11 図　鬼倉遺跡推定範囲と調査対象地位置図 …… 9
第 12 図　鬼倉遺跡確認調査トレンチ位置図 …… 9
第 13 図　鬼倉遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 …… 10
第 14 図　丸山遺跡位置図 …… 11
第 15 図　丸山遺跡被災個所位置図 …… 12
第 16 図　丸山遺跡出土遺物 …… 12
第 17 図　花立遺跡推定範囲と調査対象地位置図 …… 14
第 18 図　花立遺跡出土遺物 …… 14
第 19 図　舞台遺跡推定範囲と調査対象地位置図 …… 15
第 20 図　たて屋敷遺跡と周辺の遺跡位置図 …… 16
第 21 図　たて屋敷遺跡周辺地試掘調査トレンチ位置図 …… 17
第 22 図　たて屋敷遺跡周辺地試掘調査トレンチ土層柱状図 …… 17
第 23 図　分布調査対象遺跡位置図 …… 18
第 24 図　太田遺跡・横江遺跡出土遺物 …… 19

表　目　次

第 1 表　平成 23 年度発掘調査工程表 ……1　　第 2 表　中沢遺跡調査履歴一覧 ……6

写真図版目次

写真図版 1　【馬越遺跡周辺地】
調査地近景（西から）　調査地近景（西から）　調査地近景（東から）　1 トレンチ調査風景（東から）
2 トレンチ調査風景（北から）　1 トレンチ埋め戻し風景（東から）　1 トレンチ土層断面（西から）
2 トレンチ土層断面（東から）
写真図版 2　【元狭口遺跡】
調査地近景（北東から）　調査地近景（南西から）　調査風景（北東から）　調査風景（北東から）
調査風景（北東から）　調査風景（南から）　トレンチ土層断面（南から）
トレンチ土層断面（南から）
写真図版 3　【中沢遺跡】
調査地近景（北東から）　調査地近景（南西から）　1 トレンチ調査風景（北東から）
1 トレンチ調査風景（南西から）　2 トレンチ調査風景（南西から）　2 トレンチ調査風景（南西から）
1 トレンチ土層断面（南西から）　2 トレンチ土層断面（北東から）
写真図版 4　【鬼倉遺跡】
調査地近景（北西から）　調査地近景（南東から）　4 トレンチ調査風景（南東から）
7 トレンチ調査風景（北東から）　9 トレンチ調査風景（北西から）　1 トレンチ土層断面（南西から）
2 トレンチ土層断面（南西から）　3 トレンチ土層断面（北西から）
写真図版 5　【鬼倉遺跡】
4 トレンチ土層断面（南西から）　5 トレンチ土層断面（南西から）　6 トレンチ土層断面（南西から）
7 トレンチ土層断面（南西から）　8 トレンチ土層断面（南西から）　9 トレンチ土層断面（北西から）
10 トレンチ土層断面（南西から）　11 トレンチ土層断面（南から）
写真図版 6　【丸山遺跡】
丸山遺跡周辺の空中写真　被害状況近景（北から）　調査風景（西から）　調査風景（西から）
出土遺物
写真図版 7　【花立遺跡】
調査風景（南から）　調査風景（南東から）　調査風景（北東から）　調査風景（北東から）
土層断面（南東から）　調査風景（南東から）　出土遺物
写真図版 8　【舞台遺跡】
舞台遺跡周辺の空中写真　調査地近景（北から）　調査風景（北から）　調査風景（南から）
土層断面（東から）
写真図版 9　【たて屋敷遺跡周辺地】
たて屋敷遺跡周辺の空中写真　調査地近景（南から）　調査風景（南から）
トレンチ土層断面（南から）　トレンチ土層断面（南から）
写真図版 10　【太田遺跡・横江遺跡】
太田遺跡・横江遺跡周辺の空中写真　太田遺跡調査風景（南西から）　太田遺跡調査風景（北から）
横江遺跡近景（南西から）　出土遺物

第Ⅰ章　序　　説

1　平成 23 年度事業の概要

加茂市ではこれまで約 180 の遺跡が確認されている。特に沖積地の遺跡については、平成 7 年の新潟県教育委員会主催で実施された加茂市内の詳細分布調査が礎となっている。それから間もなくして、大規模開発の波が加茂にも訪れた。平成 8 年頃から開始された国道 403 号線バイパス建設及び県営ほ場整備事業などに代表される。しかし、それらの整理作業と報告書刊行も含め、平成 22 年度には全て終了し、大きな開発計画は沈静化している。発掘調査で得られた考古資料は膨大であり、保存・管理も重要な課題である。あわせて、各種開発行為との調整をはかり、適切な埋蔵文化財保護行政を行いながら、普及啓発事業を推進していくことも求められている。

平成 23 年度の試掘・確認調査は、県事業及び市事業については概ね、事前に計画が把握されていたもので調査計画が立て易いものであった。しかし、当初予定していた道路事業に伴う確認調査が用地買収が進まず、延期になるなど、計画通りには進まなかった。予算執行においても大幅な変更と対応をせざるを得なかった。また、「平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨」による丸山遺跡の復旧工事や公共下水道工事など予想外の工事も発生した。試掘・確認調査は公共工事 6 事業、民間開発 2 事業に関係し、6 遺跡、2 遺跡周辺地を対象とした。

馬越遺跡周辺地は県の道路建設事業、元狭口遺跡及び中沢遺跡は平成 22 年度に引き続く市の道路建設事業、たて屋敷遺跡周辺地は民間開発、鬼倉遺跡は農業排水路改良工事に伴う調査である。国・県事業に伴う調査は少なく、市と民間の事業による調査が多くなっている。

丸山遺跡は災害復旧工事、花立遺跡と舞台遺跡は市の公共下水道工事に伴い確認（工事立会い）調査を実施した。この他にも、市の公共下水道工事に伴い桜沢遺跡、県営防災附帯工事に伴い大手町遺跡において確認（工事立会い）調査、下条地区の沖積地で分布調査を行った。また、平成 22 年度加茂市内遺跡確認調査報告書を刊行した。

なお、緊急雇用創出事業に伴い、高柳城跡の測量と一部確認調査も行った。

遺跡名・地区名	調　査	調査原因	遺跡の主な時代	月　※現場調査期間												備　考
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
馬越遺跡周辺地	試掘	道路建設	古　代		▬											
元狭口遺跡	確認	道路建設	中　世							▬						加茂市事業
中沢遺跡	確認	道路建設	弥生～近世												▬	加茂市事業
鬼倉遺跡	確認	排水路改良	古　代								▬					
丸山遺跡	確認立会い	災害復旧工事	旧石器							▬						加茂市事業
花立遺跡	確認立会い	下水道工事	古　代							▬						加茂市事業
舞台遺跡	確認立会い	下水道工事	中　世								▬					加茂市事業
たて屋敷遺跡周辺地	試掘	携帯鉄塔建設	中　世		▬											
太田遺跡	分布		古　代							▬						
横江遺跡	分布		古　代								▬					
高柳城跡	測量・確認	緊急雇用創出事業	中　世						▬	▬	▬	▬				本書未収載

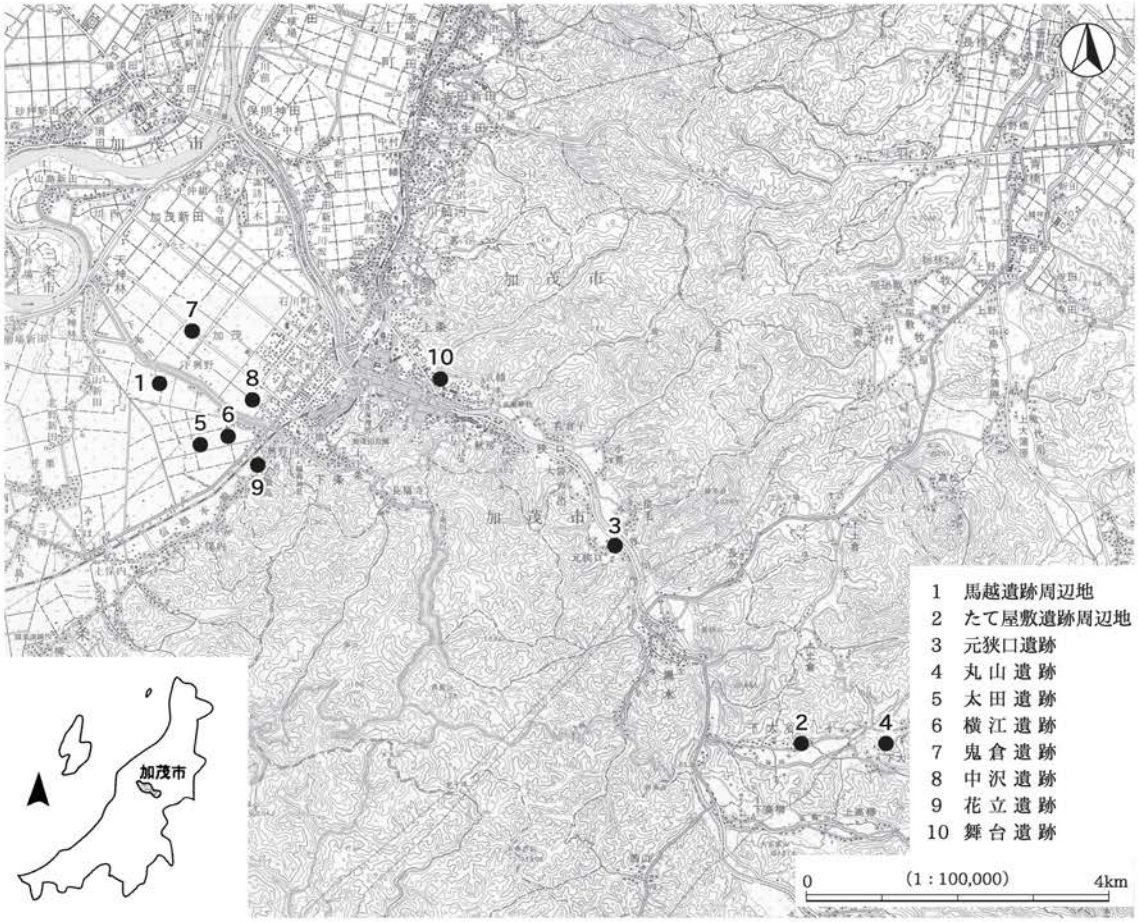
第 1 表　平成 23 年度発掘調査工程表

2　遺跡の位置と環境（第１図）

加茂市は新潟県の県央域に位置し、中越地区に含まれる。地勢は東部に高さ 1,000m を超える粟ヶ岳、権ノ神岳などの山岳が聳え、粟ヶ岳を源とする加茂川が大谷川、高柳川などの支流を集め、谷底平野を縦貫し、加茂新田地区で信濃川に注ぐ。流域延長は約 17.7km を測る。

加茂川上流部は「七谷」地区と呼ばれ、加茂川及び支流が小規模な段丘を形成し、旧石器時代～縄文時代の遺跡が多く分布する一方、弥生～古代の遺跡はほとんどなく、中世は小規模な山城や信仰関連遺物が多く確認される。加茂川が東山丘陵を抜けた現市街地域は扇状地形を形成し、弥生時代後期後半頃に開発が開始され、古墳時代前期に一層開発が進行する状況が遺跡の分布から知られる。その後、若干の空白期間を挟み、奈良・平安時代により多くの遺跡が出現する様子が明瞭である。

たて屋敷遺跡周辺地（2）と丸山遺跡（4）は加茂川上流域の山間地で、大谷川流域にある。丸山遺跡は段丘地形に立地する。元狭口遺跡（3）は加茂川中流域左岸の微高地に立地する中世の遺跡である。舞台遺跡（10）は加茂川右岸域で背後に丘陵がひかえた平野部に立地する。鬼倉遺跡（7）と中沢遺跡（8）は下条川右岸域の沖積地に展開した大規模な集落遺跡である。馬越遺跡周辺地（1）、太田遺跡（5）、横江遺跡（6）は下条川左岸域の沖積地に立地する。花立遺跡（9）は東山丘陵縁辺の緩傾斜地に立地する。



第１図　調査対象遺跡・地区位置図（S＝1：100,000）
（国土地理院　平成２年発行〔加茂〕・平成９年発行〔新津〕S＝1：50,000　原図）

第Ⅱ章　道路建設工事関連

1　調査に至る経緯

3 件の道路建設工事に伴い、2 遺跡及び 1 遺跡周辺地が試掘・確認調査の対象となった。

1 件目は、国道 403 号線道路改良工事の下条川堤防取付道路に伴う馬越遺跡周辺地の試掘調査である。本件については、前年度から三条地域振興局と加茂市教育委員会（以下、市教委）で協議を行い、試掘調査を行なうことで合意していた。用地買収が終了するのを待って、年度早々に試掘調査を実施することとした。

事務的な手続きは、埋蔵文化財発掘調査の報告を平成 23 年 5 月 13 日付け民資第 83 号で新潟県教育委員会教育長宛てに行い、調査の準備に入った。

2 件目は、市道元狭口線の改良（拡幅）工事に伴う元狭口遺跡である。加茂市の事業で、前年度にも同事業に伴う確認調査を行なっており、用地買収などが整った段階で確認調査を行なうこととした。

事務的な手続きは以下のとおりである。まず、平成 23 年 7 月 4 日付け建第 781 号で埋蔵文化財発掘の通知が加茂市長から市教委に提出された。それを受けて、市教委は平成 23 年 7 月 5 日付け民資第 120 号で埋蔵文化財の発掘について、確認調査が必要との意見を付し、新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。その後、工事施工業者の決定や周辺の稲刈りなどの状況にあわせて、埋蔵文化財発掘調査の報告を平成 23 年 10 月 4 日付け民資第 169 号で新潟県教育委員会教育長宛てに行い、調査の準備に入った。

3 件目は、中沢遺跡である。昨年度に引き続いての稲荷面横線拡幅工事を原因とした。加茂市の事業で、年度途中の用地買収済み後に事業課から連絡を受け、協議を行なった。

事務的な手続きは次のとおりである。平成 24 年 1 月 17 日付け建第 37 号で埋蔵文化財発掘の通知が加茂市長から市教委に提出された。それを受けて、市教委は平成 24 年 1 月 17 日付け民資第 9 号で埋蔵文化財の発掘について、確認調査が必要との意見を付し、新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。その後の降雪及び消雪状況を考慮しながら、埋蔵文化財発掘調査の報告を平成 24 年 3 月 12 日付け民資第 23 号で新潟県教育委員会教育長宛てに行い、調査の準備に入った。

2　馬越遺跡周辺地

（1）調査対象地と試掘調査の概要（第 2 ～ 4 図）

調査対象地は下条川左岸の堤防下の水田である。馬越遺跡推定範囲の北東部に近く、下条川を挟んで鬼倉遺跡とも近接していることを考慮し、試掘調査を行なうこととした。馬越遺跡、鬼倉遺跡ともに本地域を代表する大規模な古代の遺跡であり、遺跡の拡がりと内容を把握することは重要な課題である。

試掘調査は、平成 23 年 5 月 17 日に行った。用地買収済み区域の延長約 60m の範囲を対象とした。重機により約 2.0m × 2.5m のトレンチを掘削し、遺構・遺物の検出及び土層堆積の確認を行った。必要な測量と写真撮影後、すぐに転圧しながら埋め戻しを行った。調査は 2 トレンチ、約 10m^2 である。

（2）層　　序（第４図）

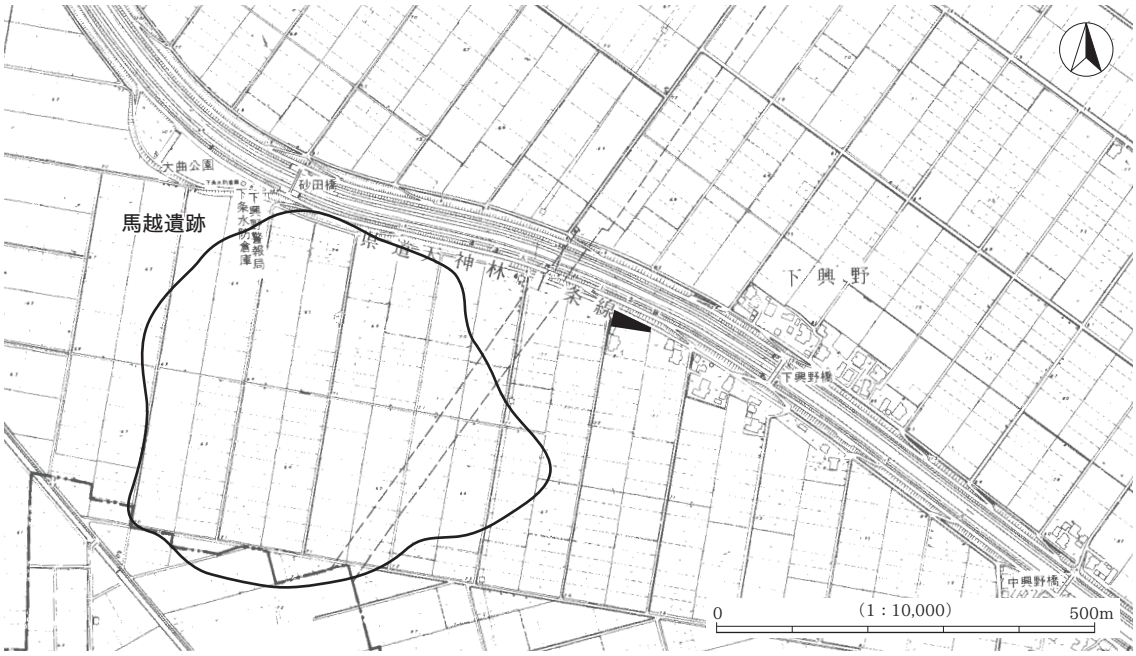
１・２トレンチとも基本的に同様の土層堆積である。２トレンチ周辺では攪乱が見られるが、Ⅰ層水田耕作土、Ⅱ層灰色砂と腐植物の混合層、Ⅲ層灰色粘質土、Ⅳ層黒色土、Ⅴ層灰色粘質土、Ⅵ層灰色腐植物層である。明確な遺構確認面（地山）は不明瞭であるが、周辺の調査状況に照らすとⅤ・Ⅵ層がそれに相当するものと考えられる。しかし、掘削深度内においては遺物包含層及び遺構確認面は確認できなかった。

（3）遺構と遺物

遺構、遺物ともに確認できなかった。

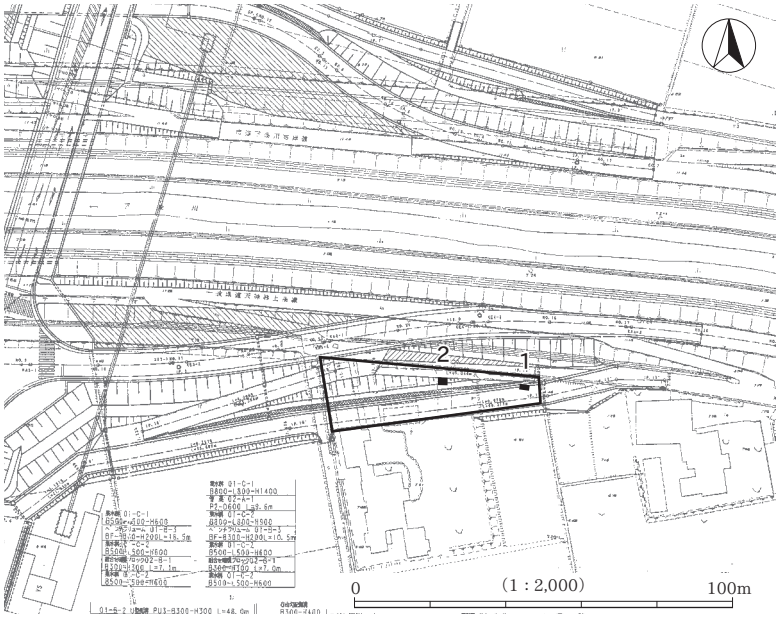
（4）調査のまとめ

今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺跡は確認できなかった。



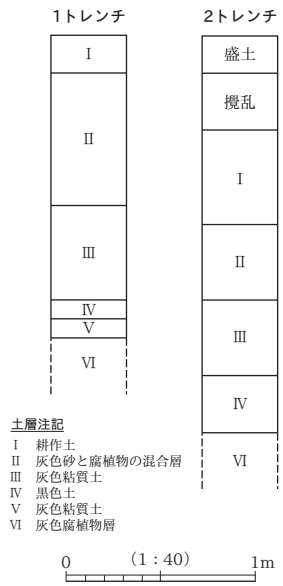
第２図　馬越遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）

（加茂市　平成 20 年印刷　〔加茂市街図〕S＝1：10,000　原図）



第３図　馬越遺跡周辺地試掘調査トレンチ位置図（S＝1：2,000）

（三条地域振興局提供平面図　S＝1：500 原図）



第４図　馬越遺跡周辺地試掘調査トレンチ土層柱状図

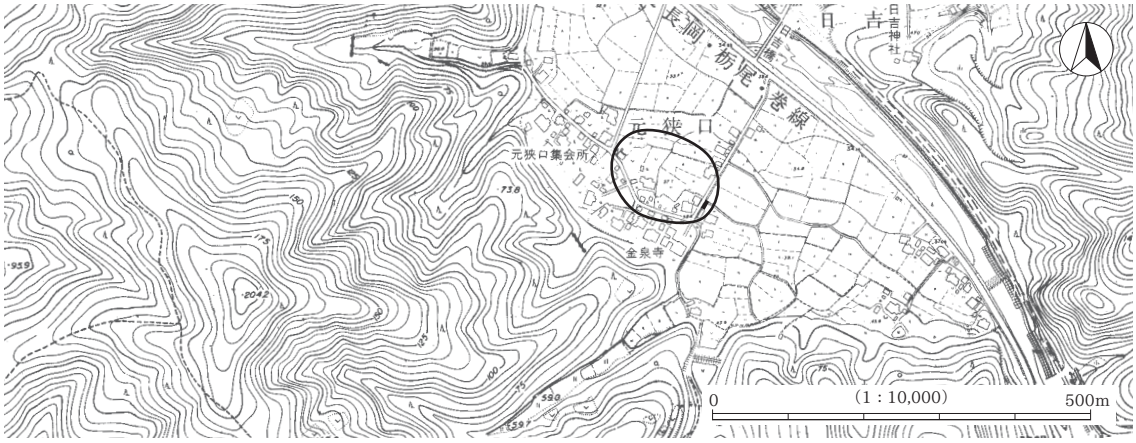
（S＝1：40）

3　元狭口遺跡

(1) 遺跡と確認調査の概要（第５～７図）

元狭口遺跡は加茂川中流域の加茂市狭口地内にある。加茂川左岸で丘陵裾部に立地する。現況は標高約37mの水田である。各水田面には約80cm程の段差があり、過去の削平や改変が行なわれた可能性がある。遺跡は平成７年の詳細分布調査で発見された。周辺には中世の遺跡がいくつか確認されている。

本事業に伴う確認調査は、平成22年度に、延長70mの範囲を対象とし、３トレンチ、約8m²の調査を実施している〔伊藤2011b〕。平成23年度は、僅か延長6mの範囲を対象とし、重機により約1.2m×1.7mのトレンチを掘削し、遺構･遺物の検出及び土層堆積の確認を行った。必要な測量と写真撮影後、すぐに転圧しながら埋め戻しを行った。調査面積は約2m²である。



第５図　元狭口遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）
（加茂市　平成20年印刷〔加茂市街図〕S＝1：10,000　原図）

(2) 層　　序（第７図）

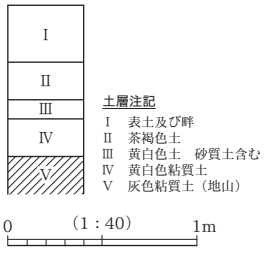
工事に伴う掘削深度にあわせて調査を行なった。Ⅰ層は表土と畔、Ⅱ層は茶褐色土、Ⅲ層が砂質土を含む黄白色土、Ⅳ層が黄白色粘質土、Ⅴ層が灰色粘質土で地山と認識した。表土から約80cmで、地山面となる。

(3) 遺構と遺物

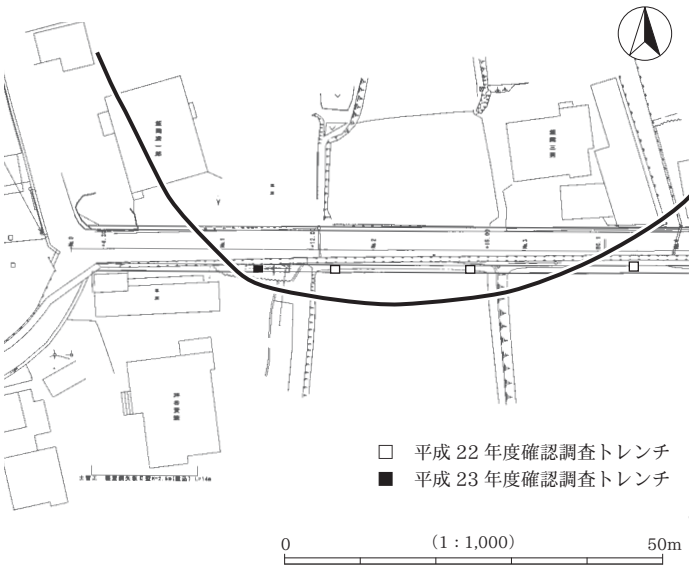
遺構､遺物ともに確認できなかった。

(4) 調査のまとめ

今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺跡は確認できなかった。



第７図　元狭口遺跡確認調査トレンチ土層柱状図
（S＝1：40）



第６図　元狭口遺跡確認調査トレンチ位置図（S＝1：1,000）
（加茂市提供平面面　S＝1：250原図）

4　中沢遺跡

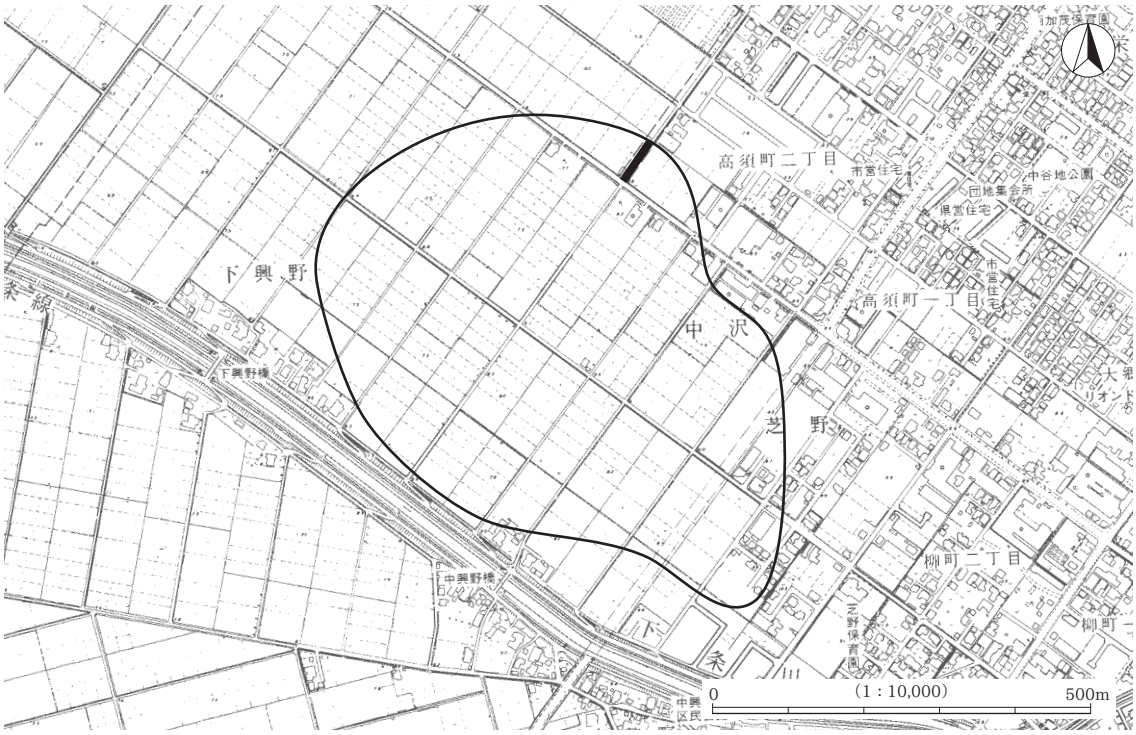
(1) 遺跡と確認調査の概要（第 8 ～ 10 図）

中沢遺跡は加茂市街地南西部の下条地区で、加茂市芝野地内にある。遺跡は下条川右岸の扇状地形の先端部付近から沖積低地にかけて拡がり、遺跡推定面積は約 27 万 m² である。周辺には古墳～古代の遺跡が多数確認され、南へ約 1.5km の丘陵上には福島古墳群や宮ノ浦古墳がある。

なお、第 2 表のとおり、平成 7 年の詳細分布調査で発見された中沢遺跡では、平成 8 年以降度々確認調査や本調査が行なわれ、貴重な成果が得られている。遺跡の中心部では現地表面下約 2m に弥生時代後期の集落跡が確認され、約 1m 程の間層を挟み、その上層面に古代の集落跡が営まれていることが明らかとなった。弥生時代後期の低地で確認された集落は周辺では少なく、貴重な事例である。古代は柱穴掘り方の平面形が方形のものが多く、規模や遺構配置などから官衙関連の性格を帯びることが推測される。

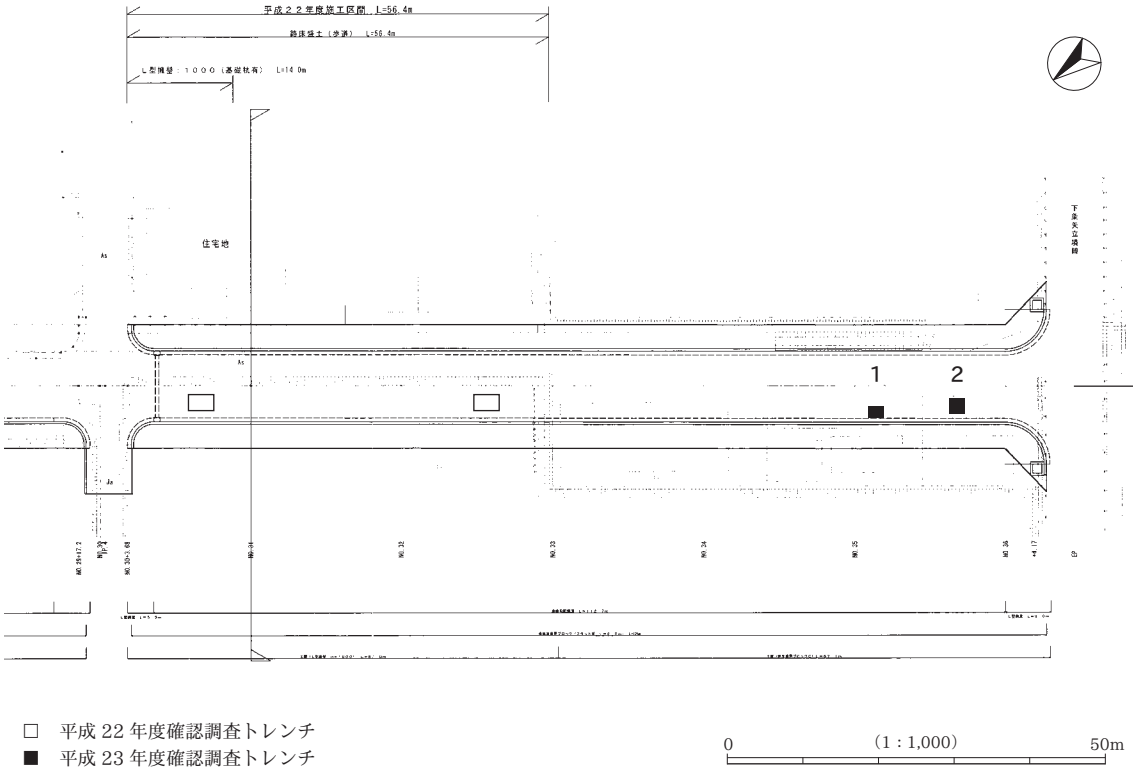
調査年次	調査種別	調査原因	調査主体・担当	調査面積（㎡）	文　献
平成 7 年（1995）	分布調査	新潟県詳細分布調査	新潟県教育委員会		
平成 8 年（1996）3	工事立会い	公共下水道工事	加茂市教育委員会		伊藤 1997
平成 9 年（1997）12	確認調査	民間開発	加茂市教育委員会	340	伊藤 1998
平成 11 年（1999）5	確認調査	民間開発	加茂市教育委員会	130	伊藤 2000
平成 11 年（1999）6	本発掘調査	民間開発	加茂市教育委員会	630	
平成 11 年（1999）8・10	確認調査	道路建設工事	加茂市教育委員会	90	伊藤 2000
平成 12・13 年（2000・2001）	本発掘調査	道路建設工事	加茂市教育委員会	1,610	伊藤 2001b
平成 16 年（2004）1	試掘調査	民間開発	加茂市教育委員会	24	伊藤 2005
平成 16 年（2004）2	工事立会い	公共下水道工事	加茂市教育委員会		伊藤 2005
平成 18 年（2006）4	確認調査	民間開発	加茂市教育委員会	20	伊藤 2008
平成 22・23 年（2010・2011）10・11・3	確認調査	道路建設工事	加茂市教育委員会		伊藤 2011b
平成 22 年（2010）10	確認調査	民間開発	加茂市教育委員会	4	伊藤 2011b
平成 23 年（2011）2	確認調査	道路建設工事	加茂市教育委員会	13	伊藤 2011b
平成 24 年（2012）3	確認調査	道路建設工事	加茂市教育委員会	11	本書

第 2 表　中沢遺跡調査履歴一覧



第 8 図　中沢遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）

（加茂市　平成 20 年印刷 〔加茂市街図〕 S＝1：10,000　原図）



第 9 図　中沢遺跡確認調査トレンチ位置図（S＝1：1,000）
（加茂市提供平面面　S＝1：500 原図）

確認調査は、平成 24 年 3 月 21 日に行った。工事施工区間約 57m の範囲を対象とした。重機により約 2.0m × 2.5m のトレンチを掘削し、遺構・遺物の検出及び土層堆積の確認を行った。必要な測量と写真撮影後、すぐに転圧しながら埋め戻しを行った。調査は 2 トレンチ、約 11m² である。

（2）層　　序（第 10 図）

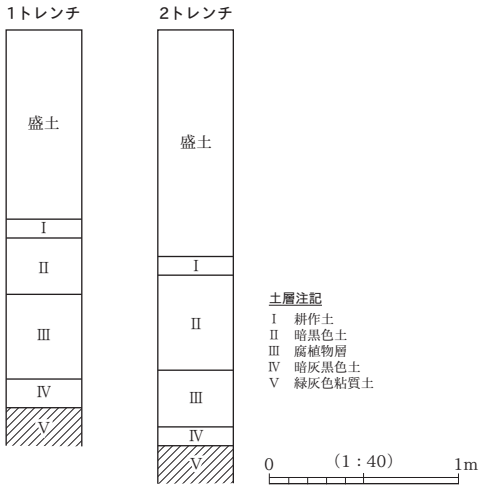
現況で、盛土が約 100cm 以上存在する。Ⅰ層水田耕作土の下位には、Ⅱ層暗黒色土、Ⅲ層腐植物層、Ⅳ層暗灰黒色土層が堆積する。Ⅳ層は周辺の事例から古代の遺物包含層に相当する層と見られる。Ⅴ層緑灰色粘質土が地山で、遺構確認面となる。

（3）遺構と遺物

遺構、遺物ともに確認できなかった。

（4）調査のまとめ

今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺跡は確認できなかった。



第 10 図　中沢遺跡確認調査トレンチ土層柱状図
（S＝1：40）

第Ⅲ章　農業基盤整備事業関連

1　調査に至る経緯

農業基盤整備事業に関連し、1 遺跡に対して確認調査と 2 遺跡に対して工事立会い調査を行った。

確認調査の対象事業は加茂郷土地改良区が主体で、2 地点において現況土水路または柵渠部分を重機で再掘削し、コンクリート 2 次製品の排水フリュ―ム（400 × 400 または 1200 × 1300）を設置する改良事業である。事業の有無については 10 月上旬に把握し、協議を開始した。どちらも周知遺跡である鬼倉遺跡地内での工事であることから、工事内容を考慮しながら、対応を判断した。

文化財保護法第 93 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘の届出については、平成 23 年 10 月 5 日付け加土改第 208 号と第 209 号で加茂郷土地改良区理事長から新潟県教育委員会教育長宛てに出された。市教委では掘削幅や現況を考慮し、第 208 号で届出の延長約 142m の現況柵渠部分に排水フリュ―ム（1200 × 1300）を設置する工事部分については工事立会い調査、第 209 号で届出の延長約 360m の現況土水路部分に排水フリュ―ム（400 × 400）を設置する工事部分については確認調査が必要と判断し、埋蔵文化財の発掘について平成 23 年 10 月 6 日付け民資第 179 号と第 180 号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。その後、関係者と調整を行い、文化財保護法第 99 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告について、平成 23 年 11 月 4 日付け民資第 227 号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出し、調査の準備に入った。

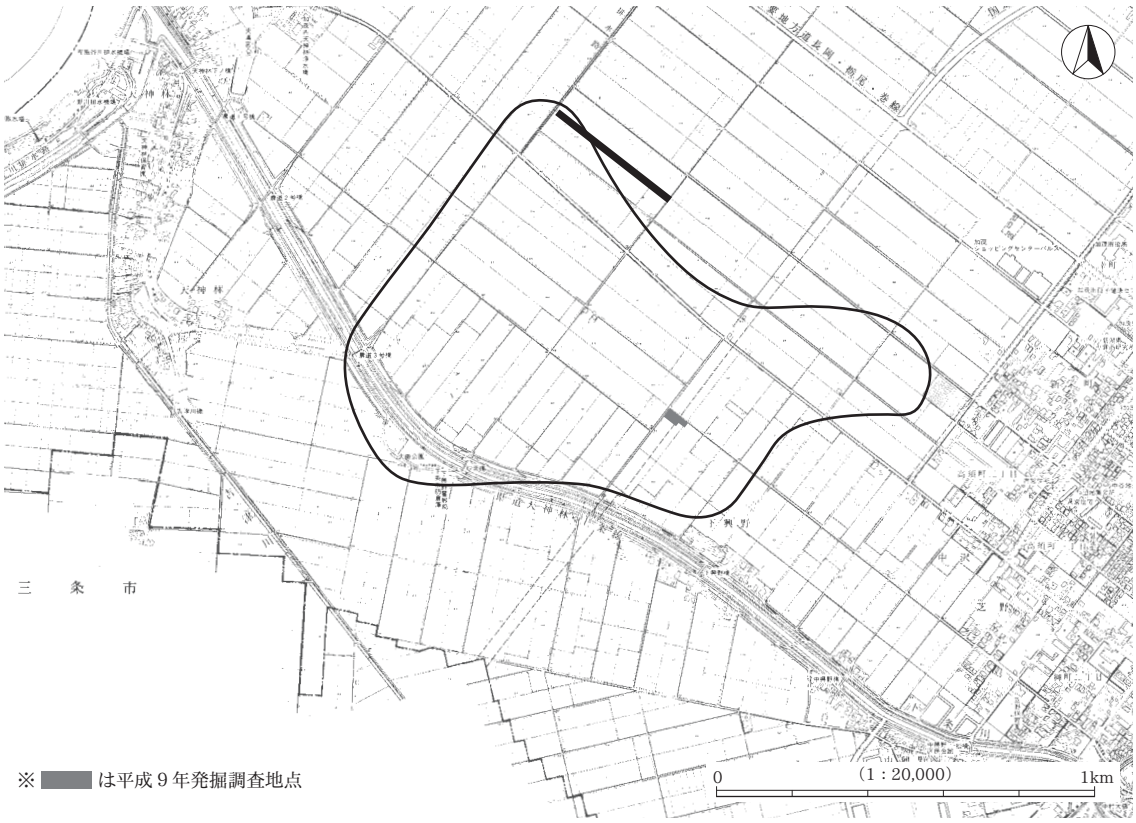
以下、鬼倉遺跡の確認調査を実施した結果について記す。なお、須田地区にある大手町遺跡についても、国営附帯県営農地防災事業に伴い、平成 23 年 12 月～ 2 月にかけて断続的に工事立会い調査を実施したが、遺構・遺物の確認はできなかった。以下、詳細報告は割愛する。

2　鬼 倉 遺 跡

（1）遺跡と確認調査の概要（第 11 ～ 13 図）

鬼倉遺跡は下条川右岸の沖積地一帯に展開する古墳時代～古代の遺跡である。平成 9 年に国道 403 号線バイパス建設工事に伴い発掘調査が行われ、9 世紀前半を中心とする集落跡が確認された。集落は河川跡を中心とし、その両岸に掘立柱建物跡が確認され、河川内部にも木組みの堰状遺構などが設けられていた。出土遺物では 100 点を超える墨書土器や石帯、和同開珎、神功開寶、土製獣脚などの稀少品も出土し、集落の性格を反映したものと見られる〔伊藤 2001a〕。

調査対象地は遺跡推定範囲の北端部にある。現地表面の標高は約 6m である。確認調査は、平成 23 年 11 月 9 日～ 10 日に行われた。工事計画予定地内を対象として任意の坑を設定し、重機により約 1.5 × 2.1m のトレンチを 11 ヵ所掘削し、遺構・遺物の検出および層序の確認を実施した。掘削の深度については、排水路改良工事の最深部を超えない程度としたが、部分的に遺構確認面まで下げて、調査を行なった。工事予定掘削深度を超えたトレンチについては、川砂を入れて転圧しながら埋め戻しを行った。調査面積は約 39.4m^2 である。



第 11 図　鬼倉遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：20,000）
（加茂市　平成 20 年印刷　〔加茂市街図〕1：10,000 原図）

第 12 図　鬼倉遺跡確認調査トレンチ位置図（S＝1：5,000）
（加茂郷土地改良区提供　平面図　S＝1：2,500　原図）

(2) 層　　序（第13図）

1～6・9～11トレンチではほぼ共通する土層堆積状況が確認された。Ⅰ層が水田の畦畔、Ⅱ層が耕作土、Ⅲ層が暗灰色または暗灰茶色粘質土、Ⅳ層・Ⅴ層が腐植物層、Ⅵ層が暗灰黒色粘質土、Ⅶ層が灰色粘質土である。周辺の確認調査事例を参照すると、Ⅵ層が古代の遺物包含層に、Ⅶ層が遺構確認面に対比可能である。

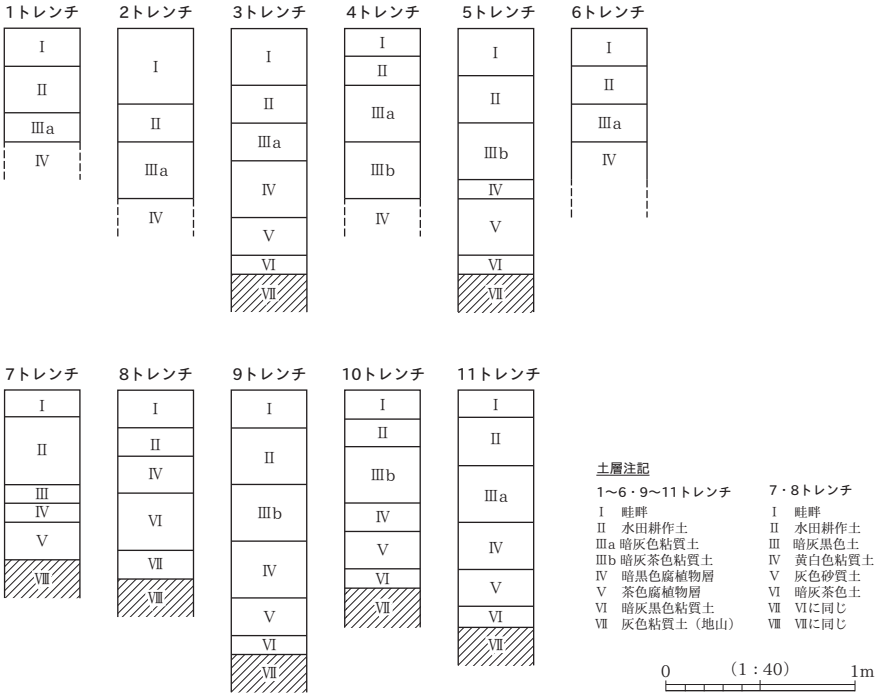
7・8トレンチでもほぼ同様の土層堆積状況が確認されたが、Ⅳ層の黄白色粘質土が他トレンチでは確認されていない。やはり、周辺の調査事例から中世以降の遺構確認面に対比できる可能性がある。

(3) 遺構と遺物

遺構・遺物ともに確認できない。

(4) 調査のまとめ

今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺跡は確認できなかった。しかし、古代の遺物包含層や遺構確認面に対比される土層が認められることから、遺跡の外縁部にあたり、近接するところに遺跡が確認される可能性は高い。



第13図　鬼倉遺跡確認調査トレンチ土層柱状図（S＝1：40）

第Ⅳ章　災害復旧工事関連

1　調査に至る経緯

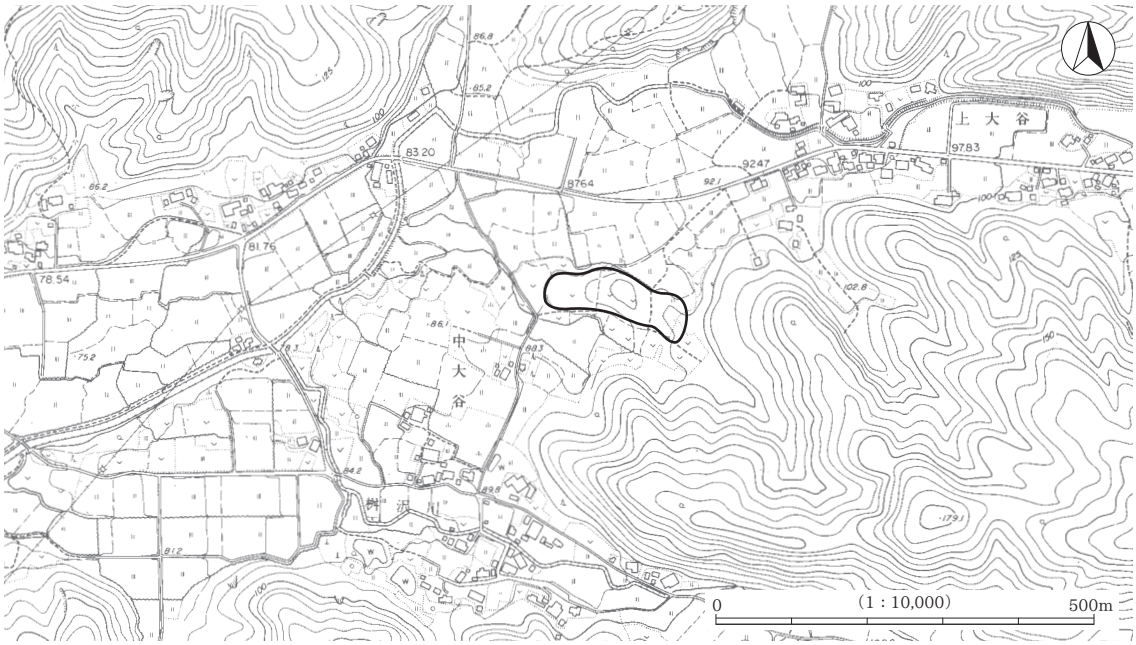
「平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨」で加茂市も甚大な被害を受けた。遺跡も例外ではなく、丸山遺跡（二万年前旧石器公園）が被災した。遺跡が立地し、公園化された段丘の北側の 9 カ所で、幅約 2 ～ 11m の規模で法面及び安全柵が崩落した。その復旧工事に関係し、掘削工事に立会い遺物出土の確認を行った。

事業主体は加茂市で、担当課が社会教育課であったことから、施工業者と連絡を取りながら工事日程と立会い調査の調整を行なった。文化財保護法第 94 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘の届出については、平成 23 年 10 月 6 日付け民資第 177 号で新潟県教育委員会教育長宛てに出された。市教委では工事内容から掘削工事における立会い調査が必要と判断し、埋蔵文化財の発掘について平成 23 年 10 月 6 日付け民資第 178 号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。

2　丸 山 遺 跡

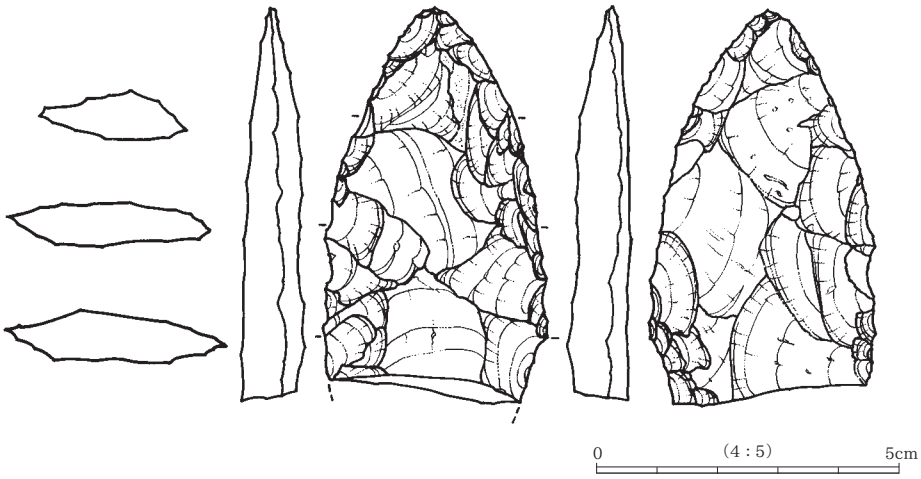
（1）遺跡と立会い調査の概要（第 14 ～ 16 図）

丸山遺跡は大谷川左岸の標高約 95m の段丘上に立地する。平成 7 年に詳細分布調査で、発見され周知化され、縄文時代の遺跡として把握された。しかし、平成 13 年に加茂市史編纂に伴う現地調査で、旧石器時代の遺跡であることが判明した。それを受け、加茂市史編纂事業の一環として平成 14 年に確認調査、続く平成 15 年にも緊急雇用創出事業による発掘調査が行なわれた。その結果を踏まえ、加茂市は平成 15 年に加茂市指定史跡とし、その後、平成 18 年 11 月に二万年前旧石器公園として竣工した。



第 14 図　丸山遺跡位置図（S＝1：10,000）
（加茂市　平成元年作成 〔加茂市東部地形図 2〕1：10,000 原図）

第 15 図　丸山遺跡被災個所位置図（S＝1：1,500）
（施工業者提供　S＝1：500　原図）



第 16 図　丸山遺跡出土遺物

立会い調査は、作業員を数名配置し、最初は崩落した法面の精査を行い、その後は施工業者の掘削工事の日程に合わせ、重機による掘削土中の調査を行い、遺物の有無を確認した。調査は平成 23 年 10 月 12 日～ 10 月 27 日にかけて行なった。遺物（尖頭器 1 点・剥片 1 点）は北側の法面から出土した。

(2) 遺　　物

尖頭器の石材は無斑晶質安山岩で、その厚手の剥片を素材としている。最大長 64.90mm、最大幅 37.40mm、最大厚 10.50mm、重量 26.88g である。左右対称の木葉形尖頭器である。後世の欠損（ガジリ）で下半部（基部）を失っている。器体中央に最大幅があり、欠損前の最大長は 100mm 前後とみられる。

(3) 調査のまとめ

今回の調査で採集された石器のうち 1 点は縄文時代草創期のもので、丸山遺跡での活動履歴を示すと同時に加茂市においては遺跡数の少ない時期でもあり、貴重な資料である。

第Ⅴ章　公共下水道工事関連

1　調査に至る経緯

公共下水道工事に関係し、花立遺跡、舞台遺跡、桜沢遺跡の３遺跡に対し、６件の立会い調査を行なった。

公共下水道工事については、加茂市下水道課が遺跡分布図と工事予定地を照合し、周知の遺跡地内での工事であれば、協議を行なうことにしている。ほとんどが掘削幅 1m 未満であるため、工事立会い調査または慎重工事の取り扱いになる。

花立遺跡地内の工事については、文化財保護法第 94 条第１項の規定による埋蔵文化財発掘の通知が平成 23 年６月３日付け下第 92 号、平成 23 年９月 16 日付け下第 145 号、平成 23 年９月 26 日付け下第 151 号、平成 23 年 12 月 12 日付け下第 210 号で新潟県教育委員会教育長宛てに出された。埋蔵文化財の発掘については、それぞれ平成 23 年６月７日付け民資第 100 号、平成 23 年９月 21 日付け民資第 160 号、平成 23 年９月 27 日付け民資第 165 号、平成 23 年 12 月 12 日付け民資第 264 号で、工事立会いの意見を付して新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。

舞台遺跡地内の工事については、文化財保護法第 94 条第１項の規定による埋蔵文化財発掘の通知については、平成 23 年９月 26 日付け下第 152 号で新潟県教育委員会教育長宛てに出された。埋蔵文化財の発掘について、平成 23 年９月 27 日付け民資第 166 号で、工事立会いの意見を付して新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。

桜沢遺跡地内の工事については、文化財保護法第 94 条第１項の規定による埋蔵文化財発掘の通知については、平成 23 年８月 26 日付け下第 122 号で新潟県教育委員会教育長宛てに出された。埋蔵文化財の発掘について、平成 23 年８月 29 日付け民資第 149 号で、工事立会いの意見を付して新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。その後、平成 23 年 10 月 11 日～ 10 月 18 日にかけて断続的に工事に立会い、状況を確認したが、遺構・遺物ともに出土していない。以下、詳細報告は割愛する。

2　花 立 遺 跡

（1）遺跡と立会い調査の概要（第 17 ～ 19 図）

花立遺跡は畑地などから土器が採取されていたことから、古くから知られていたことが推測されるが、周知化されたのは平成５年である。平成７年には詳細分布調査が行なわれ、縄文土器、須恵器、土師器、珠洲焼などが採取され、縄文・古代・中世の遺跡として把握された。遺跡は新津丘陵縁辺の標高約 13m の微高地上に立地する。後背の丘陵上には福島古墳群が確認されている。

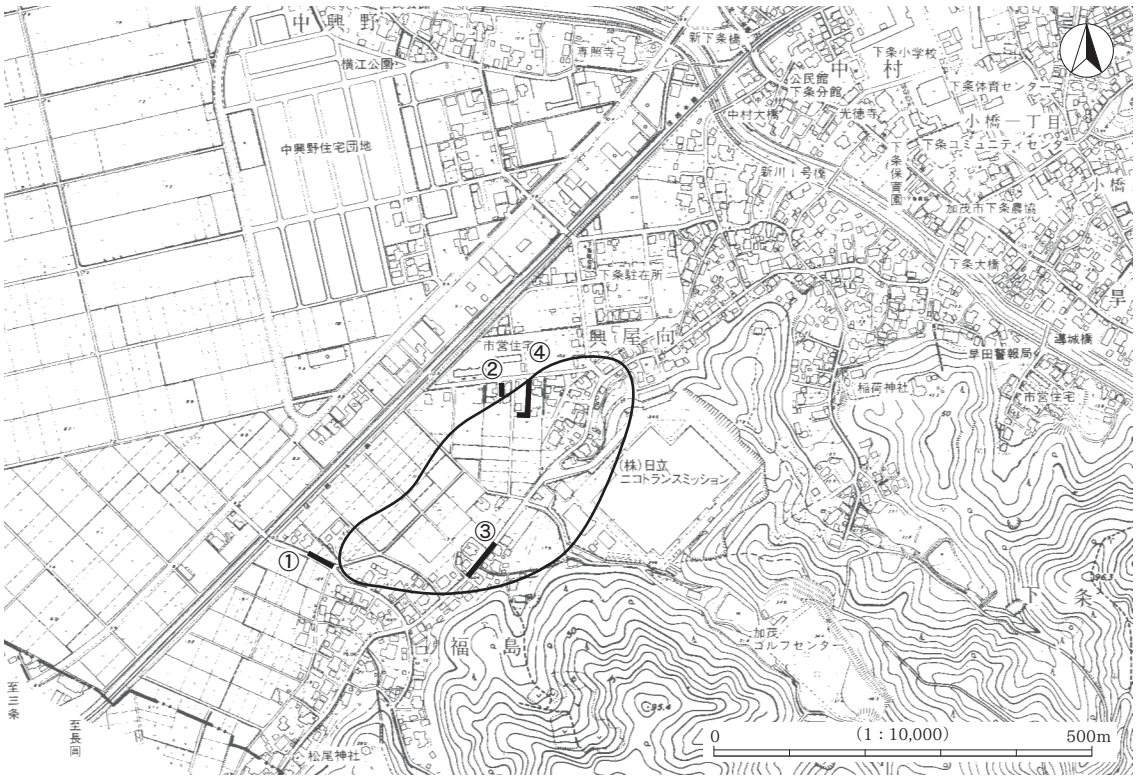
調査対象地は４地点あり、①・②地点は推定範囲に隣接し、③・④地点は推定範囲内であった。調査は掘削工事に合わせ、①地点が９月、②・③地点が 10 月、④地点が１月中の数日立会い、遺構、遺物の確認を行なった。特に③地点では、遺物が表採できる畑地に近接した区域でもあり、作業員を配置して、調査を実施した。土層の観察所見でも、遺物包含層と見られる暗黒色土と遺構確認面と見られる灰色粘質土が堆積し、遺跡が残存する可能性が高い。①、②、④地点からは遺構、遺物ともに確認できなかった。

（2）遺構と遺物（第 18 図）

③地点の掘削土の排土置き場から須恵器の甕 1 点が採取された。頸部～体部にかけての大型の破片で、外面は平行タタキ、内面は同心円当て具痕が見られる。また、外面の全面に暗緑色の自然釉がかかる。平安時代頃の土器と考えられる。

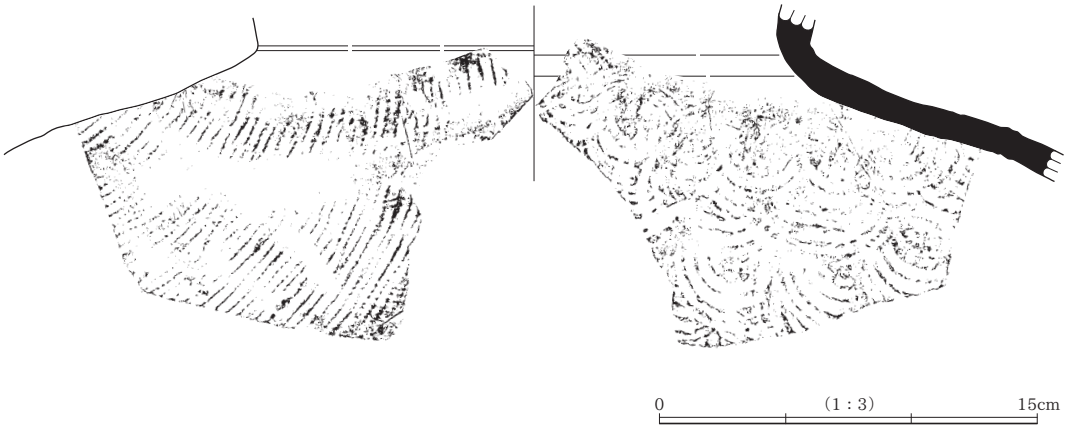
（3）調査のまとめ

今回の調査対象区域のうち、一部では土層堆積状況の所見や須恵器が出土したことから、周辺には古代の遺跡が残存している可能性が高い。



第 17 図　花立遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）

（加茂市　平成 20 年印刷　〔加茂市街図〕1：10,000 原図）



第 18 図　花立遺跡出土遺物

3　舞台遺跡

（1）遺跡と立会い調査の概要（第 19 図）

舞台遺跡は加茂川右岸の標高約 16m の沖積地に立地する。従来、後背地に存在する上条前山城跡との関連から「上条館跡」の推定地となっていたが、平成 6 年の確認調査により、舞台遺跡と改称された。平成 8 年には約 1,000m² の発掘調査が行なわれ、井戸や河川跡が確認され、13 世紀代の中世土師器や珠洲焼、木製品などが出土した。

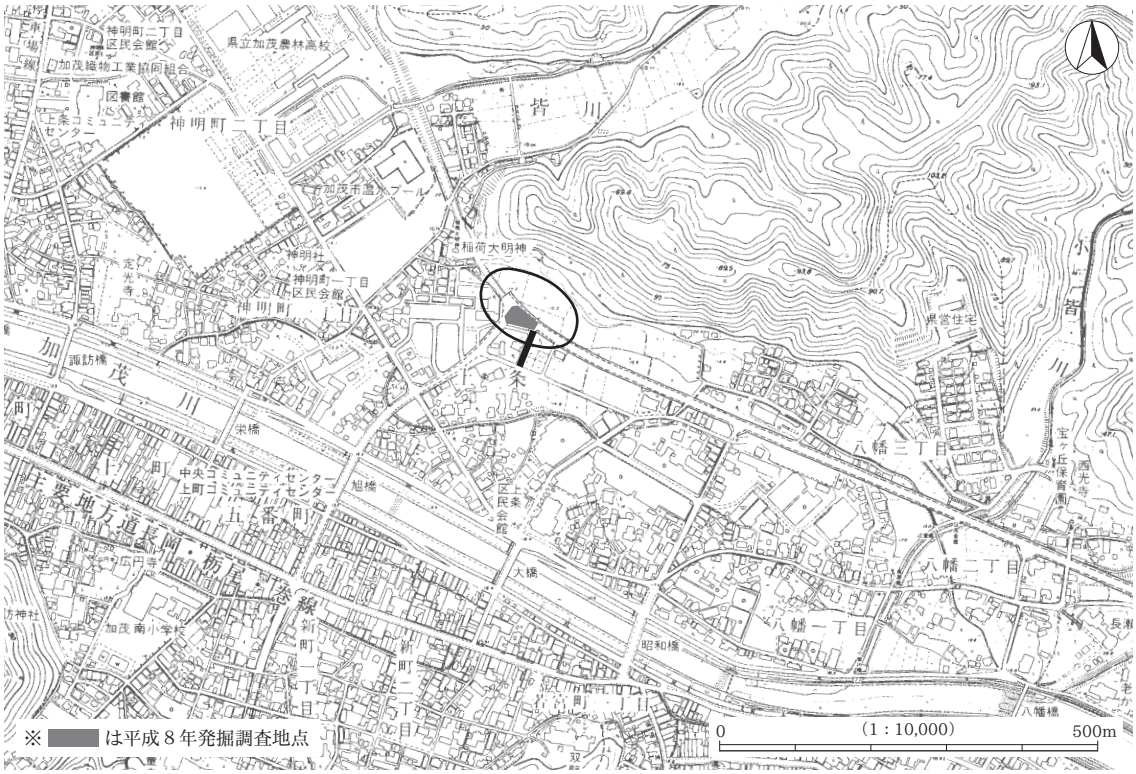
調査対象地点は、遺跡推定範囲の南側で、発掘調査地点と近接している。調査は掘削工事に合わせ、11 月 7 日～ 11 月 22 日まで断続的に数日立会い、遺構、遺物の確認を行なった。

（2）遺構と遺物

遺構・遺物ともに確認できない。

（3）調査のまとめ

今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺跡は確認できなかった。しかし、遺構確認面に相当すると見られる粘質土が確認できることから周辺部には遺跡が展開している可能性が高い。



第 19 図　舞台遺跡推定範囲と調査対象地位置図（S＝1：10,000）

（加茂市　平成 20 年印刷　〔加茂市街図〕1：10,000 原図）

第Ⅵ章　民間開発関連

1　調査に至る経緯

携帯電話無線基地局設置工事に関係し、1件の試掘調査と送油パイプライン防護工事に関係し、1件の立会い調査を行った。

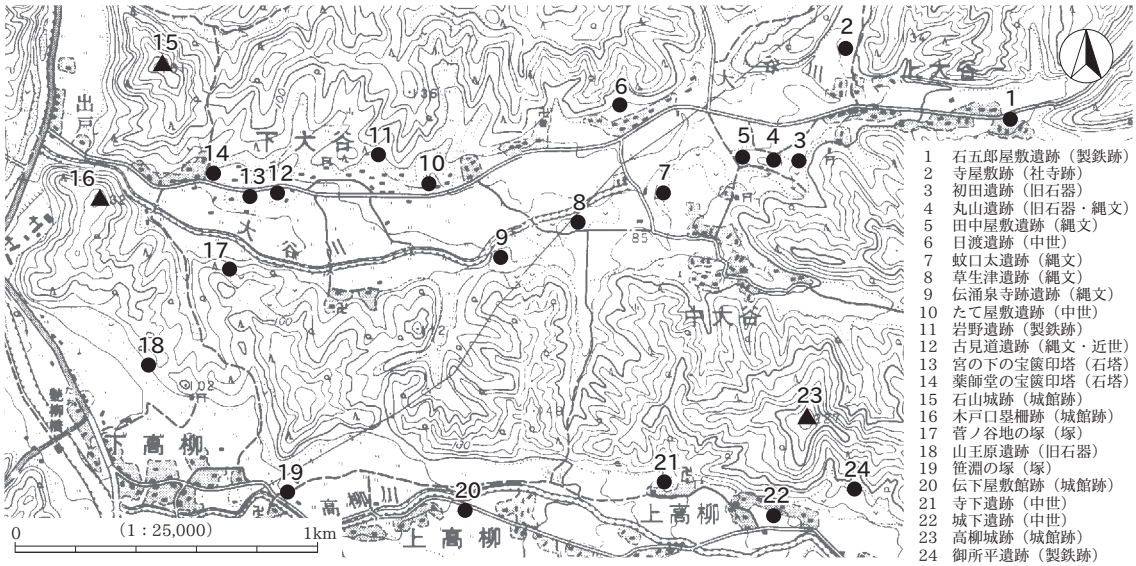
携帯電話無線基地局設置工事は平成23年5月に事業者から開発の計画と埋蔵文化財の有無についての照会を受け、周知遺跡であるたて屋敷遺跡の推定範囲に近接する区域であることから、試掘調査を行なうことで協議を進めた。その後、平成23年5月23日付けで事業者から試掘調査の依頼文が出された。市教委では調査日程を調整し、文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告について、平成23年5月25日付け民資第92号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出し、調査の準備に入った。

送油パイプライン防護工事は鬼倉遺跡地内での工事であったことから平成23年10月に1日のみ立会い調査を実施した。遺跡には全く影響のない工事であった。以下、詳細報告は割愛する。

2　たて屋敷遺跡周辺地

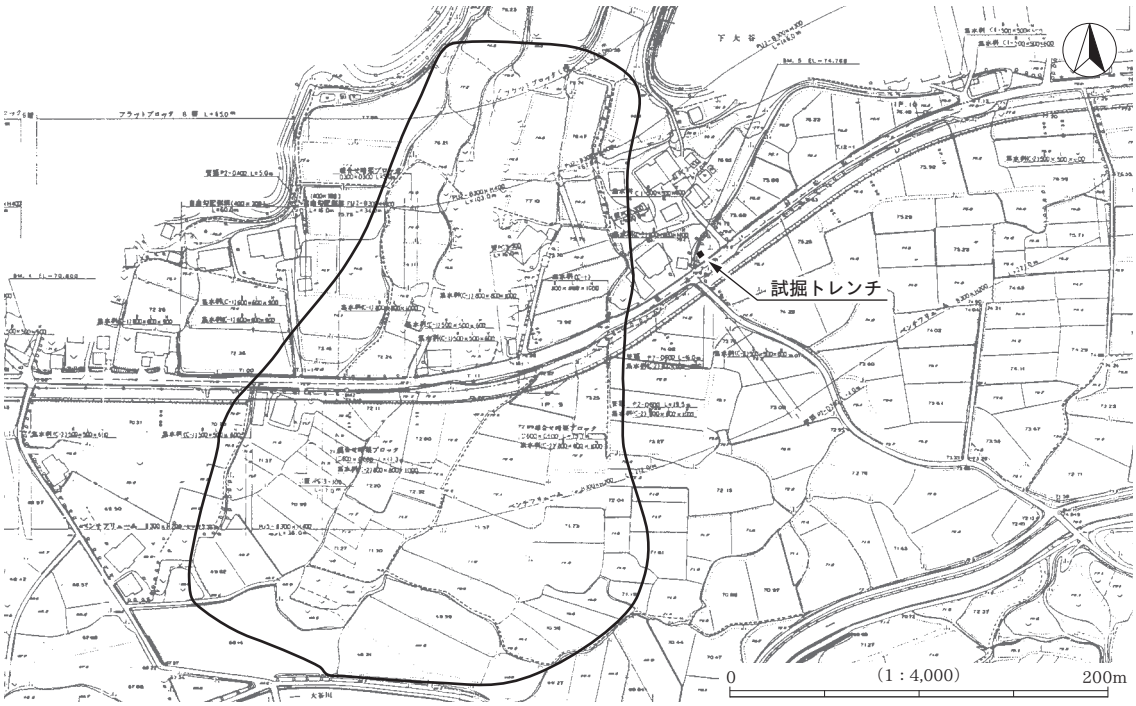
(1) 遺跡と試掘調査の概要（第20～22図）

たて屋敷遺跡は加茂市南東部の大字下大谷字岩野地内にある。平成7年の詳細分布調査で発見された。遺跡推定範囲は丘陵部から緩やかに南側に向かい舌状に伸びる台地（標高約76m）と大谷川右岸の平地（標高約73m）である。推定区域には「町屋敷」、「番場田」などの地名や細長い短冊状の地割りが地籍図に残るなど中世城下町の様相を示すとの指摘もある〔高橋1997〕。周辺には旧石器時代の丘陵部には城跡が多く、特に本遺跡の南東約



第20図　たて屋敷遺跡と周辺の遺跡位置図（S＝1：25,000）

（加茂市　平成8年印刷　〔加茂市全図〕S＝1：25,000　原図）



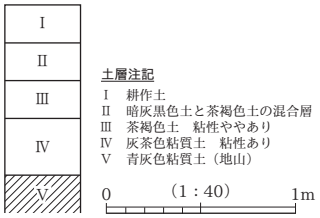
第 21 図　たて屋敷遺跡周辺地試掘調査トレンチ位置図（S＝1：4,000）
（三条地域振興局提供平面面　S＝1：2,000 原図）

1.5km にある高柳城は戦国期の数々の遺構が残り、本地域を代表する山城である。ほかにも製鉄跡や石塔などが確認できる。平成 10 年と 11 年に県営中山間地域農村活性化総合整備事業に伴う確認調査〔伊藤 1999・2000〕、平成 22 年に道路建設工事に伴う確認調査〔伊藤 2011b〕が実施されている。それぞれ明確な遺構は確認されていないが、前者の調査では中世陶器などが少量出土した。

試掘調査は、平成 23 年 5 月 26 日に行った。従来水田のところに盛土がされた場所で、基礎工事が行なわれる範囲（約 2 × 2m）を対象とした。重機により掘削し、遺構・遺物の検出及び土層堆積の確認を行った。必要な測量と写真撮影後、すぐに転圧しながら埋め戻しを行った。調査は約 4m² である。

（2）層　　序（第 22 図）

部分的に約 20cm 程の盛土があり、その下にⅠ層旧水田耕作土、Ⅱ層暗灰黒色土と茶褐色土の混合層、Ⅲ層茶褐色土、Ⅳ層灰茶色粘質土、Ⅴ層青灰色粘質土（地山）となる。掘削深度内においては遺物包含層及び遺構確認面は確認できなかった。



第 22 図　たて屋敷遺跡周辺地試掘調査トレンチ土層柱状図（S＝1：40）

（3）遺構と遺物

遺構、遺物ともに確認できなかった。

（4）調査のまとめ

今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺跡は確認できなかった。

第Ⅶ章　分 布 調 査

1　調査に至る経緯

個人の水田耕作に伴う掘削工事と新発見の遺跡の周知化に伴い、二つの区域を対象とした分布調査を実施した。

1件は9月末に水田耕作者から「太田遺跡がある場所で溝を掘りたいがよいか。」との電話を頂いた。太田遺跡では圃場整備事業に伴い発掘調査が行なわた経緯もあり、耕作関係者にもある程度周知されている遺跡である。工事の規模から遺構や包含層まで破壊されるようなものではなく、通常の水田管理作業の一環と判断されたので、工事実施後に耕作者の同意を得て、分布調査を行なわせて頂くこととした。

もう1件は、太田遺跡に隣接した区域で、県央歴史研究所長から10月下旬に遺物を発見したとの連絡を受け、市教委で確認を行なったもので、その結果、これまで把握されていない新発見の遺跡、横江遺跡として周知化された。

2　太田遺跡・横江遺跡

(1) 遺跡と分布調査の概要（第23・24図）

遺跡は下条川左岸の沖積地にある。太田遺跡では、県営圃場整備事業吉津川地区に伴い、平成19年に発掘調査が行なわれ、奈良・平安時代の集落跡が確認されている〔伊藤 2011a〕。分布調査の対象とした区域は、発掘調査区域に近接した水田にあたる。遺物の出土も予想されたため、1日をかけ、作業員4名で分布調査を実施した。土器数点が採取された。

第23図　分布調査対象遺跡位置図（S＝1：10,000）
（加茂市　平成20年印刷　〔加茂市街図〕1：10,000原図）

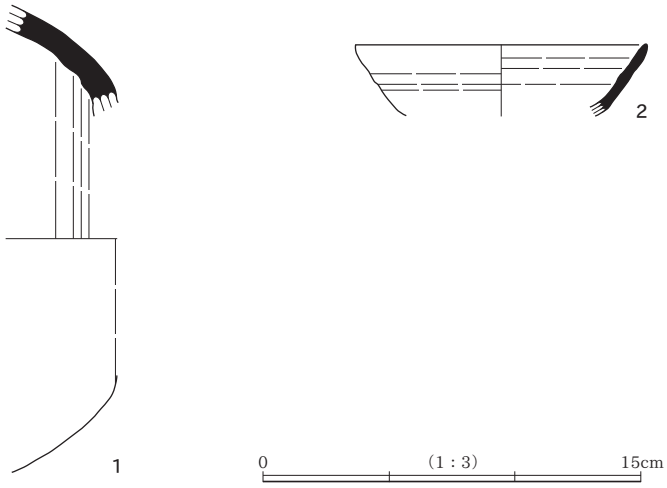
横江遺跡は太田遺跡の北部に位置し、同一の圃場整備事業が実施された区域である。県央歴史研究所長から持ち込まれた遺物は、古代の土器であったことから、現地を確認したところ、排水路の肩などに土器片の散布が見られたことから、遺跡の存在を認め、周知化した。

（2）遺　　物

採取された土器はいずれも破片で、図化可能なものは少ない。1 は太田遺跡で採取された、須恵器横瓶で、底部に近い部位の破片である。外面に自然釉が見られる。新津丘陵窯産であろう。2 は横江遺跡で採取された須恵器無台杯の口縁部片である。小型でやや薄手のつくりである。小泊窯産であろう。

（3）調査のまとめ

太田遺跡では、これまでの調査と同じく、古代の遺物が採取された。今後も農作業により遺物が出土することも予想される。横江遺跡は新たに発見された古代の遺跡であり、水田部での遺跡把握の難しさを実感した。



第 24 図　太田遺跡・横江遺跡出土遺物

第Ⅷ章　ま　と　め

1　平成 23 年度調査成果について

本書に収録した試掘・確認調査・分布調査は、８遺跡、２遺跡周辺地を対象とした。

丸山遺跡から１点ではあるが、縄文時代草創期の尖頭器が出土したことは、加茂川流域とその支流における縄文時代草創期の様相が不明な中で特筆される。また、遺構・遺物は確認されていないが、鬼倉遺跡の確認調査では古代の包含層に対比される土層が堆積していることを確認できた。花立遺跡では、古代の遺物を掘削土から確認し、工事区域に遺跡が遺存していることが推測できる。

本書で報告する調査成果は断片的でささやかなものではあるが、各遺跡の調査履歴として記録し、今後の調査に活かしていく必要がある。

2　丸山遺跡出土の尖頭器について

幅広で端正な整形の尖頭器の特徴から、阿賀町（旧上川村）小瀬ケ沢洞窟〔中村（孝）1960〕などに代表される縄文時代草創期前半の尖頭器であると考えられる。石材の無斑晶質安山岩は千曲川下流域～信濃川上流域の新潟県と長野県境付近の信濃川上流域の開田山地に広く分布する黒色で緻密な安山岩である〔中村(由)1986〕。信濃川上流域では転石として確認される。新潟県域では独特な表面の特徴から「ツメ石」と称され、旧石器時代から縄文時代にかけての剥片石器の石材に利用されている。信濃川支流の加茂川では確認されない石材であることから、この尖頭器は、開田山地周辺から搬入されたものと考えられる。この石材で製作された旧石器時代終末から草創期前半の尖頭器は原産地周辺の飯山市・栄村・津南町・十日町市では広く利用されている。信濃川下流域およびそれ以北の新潟県下越地方では使用頻度が少なくなるが、大形で精巧な尖頭器が搬入されている。類例としては、三条市（旧下田村）荒沢遺跡〔小熊・立木ほか 1994〕、三条市（旧下田村）倉山遺跡〔新潟県立三条商業高等学校社会科クラブ考古班 1980･佐藤 1981〕[1)]、阿賀町（旧上川村）小瀬ケ沢洞窟〔中村 1960〕、阿賀町（旧三川村）上ノ平遺跡 C 地点〔澤田ほか 1996〕、新発田市上車野 D 遺跡〔阿部 1991〕[2)]、村上市（旧朝日村）樽口遺跡 A-MS 文化層〔立木ほか 1996〕などがある。加茂市を含むこれらの地域では当該期の尖頭器石材としては七谷層由来の頁岩が主要石材として用いられることが多く、無斑晶質安山岩は数少ない存在である。その中でも特に大形品に用いられていることは、特殊な用途や希少財としての価値があったと思われる。丸山遺跡の既存の調査では縄文時代と旧石器時代の遺物が確認されている[3)]。縄文時代では土器の出土点数は少なく時期は明確にできないが、石器の特徴から早期以降と考えられている。また旧石器時代では杉久保型ナイフ形石器と神山型彫器が特徴的な「杉久保系石器群」が確認されている。今回新たに発見された尖頭器は前述したとおり、縄文時代草創期前半に位置づけられる。単独出土品ではあるが、丸山遺跡の時期幅を示す重要な資料となる。

1）〔佐藤 1981〕では「流紋岩」と記載されている。実見の上、判断した。
2）報告では「サヌカイト」と記載されている。
3）2001・2003 年の加茂市教育委員会の確認調査成果による。調査報告は現在編さん中の『加茂市史　資料編４　考古』に掲載予定である。

引用・参考文献

阿部朝衛　1991　「新潟県新発田市周辺の旧石器（2）」『北越考古学』第４号　北越考古学研究会

伊藤秀和　1997　「加茂市中沢遺跡出土の土器について」『越佐補遺些』第２号　越佐補遺些の会

伊藤秀和　1998　『加茂市文化財調査報告（8）平成９年度　加茂市内遺跡確認調査報告書－丸潟遺跡　新通遺跡　馬越遺跡　上條館跡　中沢遺跡　石川遺跡－』 加茂市教育委員会

伊藤秀和　1999　『加茂市文化財調査報告（9）平成 10 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書－たて屋敷遺跡　蚊口太遺跡　草生津遺跡　伝湧泉寺跡遺跡　大塚遺跡　馬越遺跡　鬼倉遺跡－』 加茂市教育委員会

伊藤秀和　2000　『加茂市文化財調査報告（11）平成 11 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書－たて屋敷遺跡　古見道遺跡　中沢遺跡　岩野原Ａ遺跡　馬寄遺跡周辺地　山伏塚遺跡　舞台遺跡　横土居遺跡　稲荷浦遺跡　西吉津川遺跡　天神林地内－』 加茂市教育委員会

伊藤秀和　2001a　『加茂市文化財調査報告（13）鬼倉遺跡－国道 403 号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書－』 加茂市教育委員会

伊藤秀和　2001b　「加茂市下条中沢遺跡発掘調査速報」『加茂郷土誌』第 23 号　加茂郷土調査研究会

伊藤秀和　2005　『加茂市文化財調査報告（15）平成 15 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書－西吉津川遺跡　馬越遺跡　太田遺跡　寺下遺跡　城下遺跡　伝下屋敷館跡　割沢遺跡　中沢遺跡－』 加茂市教育委員会

伊藤秀和　2008　『加茂市文化財調査報告（17）平成 17 年度・平成 18 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書－丸潟遺跡　五反田地区　中沢遺跡　草生津遺跡－』 加茂市教育委員会

伊藤秀和　2011a　『加茂市文化財調査報告（21）荒又遺跡　太田遺跡－県営ほ場整備事業吉津川地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書－』 加茂市教育委員会

伊藤秀和　2011b　『加茂市文化財調査報告（22）平成 22 年度　加茂市内遺跡確認調査報告書－たて屋敷遺跡　元狭口遺跡　中沢遺跡　後須田地区－』 加茂市教育委員会

小熊博史・立木宏明ほか　1994　『荒沢遺跡』 下田村教育委員会

小山正忠・竹原秀雄　1997　『新版　標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局監修

佐藤雅一　1981　「五十嵐川流域の先土器時代遺跡」『三条考古学研究会　機関誌』第２号　三条考古学研究会

佐藤雅一　1999　「第５節　道具と技術　第１項　草創期の石器群」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会編　高志書院

澤田　敦ほか 1996　『磐越自動車道関係発掘調査報告書　上ノ平遺跡Ｃ地点』 新潟県教育委員会　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋雅弘　1997　「加茂市内及びその周辺の中世城館跡（その一）－七谷地区を中心に（上）—」『加茂郷土誌』第 19 号　加茂郷土調査研究会

立木宏明ほか 1996　『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅴ　樽口遺跡』 新潟県朝日村教育委員会

中村孝三郎　1960　『小瀬が沢洞窟』 長岡市立科学博物館

中村由克　1986　「野尻湖・信濃川中流域の旧石器時代遺跡群と石器石材」『信濃』38 巻４号　信濃史学会

中村由克　1995　「長野・新潟における石器石材」『第３回岩宿フォーラム ／ シンポジウム石器石材～北関東の原石とその流通を中心として～　予稿集』岩宿文化資料館　岩宿フォーラム実行委員会

新潟県立三条商業高等学校社会科クラブ考古班　1980　「第２章　遺跡と遺物　18．倉山遺跡」『五十嵐川流域における先史遺跡　VOL.2　調査報告書　第６冊』

堀川正美・渋木宏人　2010　「五十嵐川流域の石器石材について」『三条考古学研究会　機関誌』第４号　三条考古学研究会

別　表

凡　例

1　法　　量　土器は口径・底径・器高を示す。括弧付きの数値は遺存率が低く、推定値を含む。
2　残 存 率　※／36 で残存割合を示した。
3　含 有 物　土器の胎土中に含まれる鉱物等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石、「白凝」は白色凝灰岩を表す。
4　焼　　成　観察者の主観的判断で「良好」、「並」、「不良」に分類した。
5　色　　調　『新版標準土色帖』〔小山・竹原 1997〕の記号を記した。
6　手　　法　特徴的な手法のみ記した。
7　備　　考　主に付着物や須恵器産地を記した。

1　花立遺跡・太田遺跡・横江遺跡　土器観察表

図No.	報告番号	種別	器種	法　量（cm）			残存率		胎　土	焼成	色　調		手　法		備　考
				口径	底径	器高	口縁	底部	含有物		外面	内面	外面	内面	
18		須恵器	甕						石・長	並	2.5Y5/1 黄灰	10YR6/1 褐灰	平行タタキ	同心円当て具	花立遺跡　外面自然釉
24	1	須恵器	横瓶						石・長	並	7.5Y3/1 オリーブ黒	N7/ 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	太田遺跡　外面自然釉、新津丘陵窯産
24	2	須恵器	無台杯	11.6			2/36		石・白凝	不良	7.5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	ロクロナデ	ロクロナデ	横江遺跡　小泊窯産

2　丸山遺跡　石器観察表

図No.	報告番号	種別	器種	法　量（cm）			重量（g）	石　材	色　調	備考
				長さ	幅	厚み				
16		石製品	尖頭器	（64.9）	37.4	10.5	26.88	無斑晶質安山岩	2.5Y5/2 暗灰黄	

写 真 図 版

馬越遺跡周辺地　調査地近景（西から）

馬越遺跡周辺地　調査地近景（西から）

馬越遺跡周辺地　調査地近景（東から）

馬越遺跡周辺地　１トレンチ調査風景（東から）

馬越遺跡周辺地　２トレンチ調査風景（北から）

馬越遺跡周辺地　１トレンチ埋め戻し風景（東から）

馬越遺跡周辺地　１トレンチ土層断面（西から）

馬越遺跡周辺地　２トレンチ土層断面（東から）

元狭口遺跡　調査地近景（北東から）

元狭口遺跡　調査地近景（南西から）

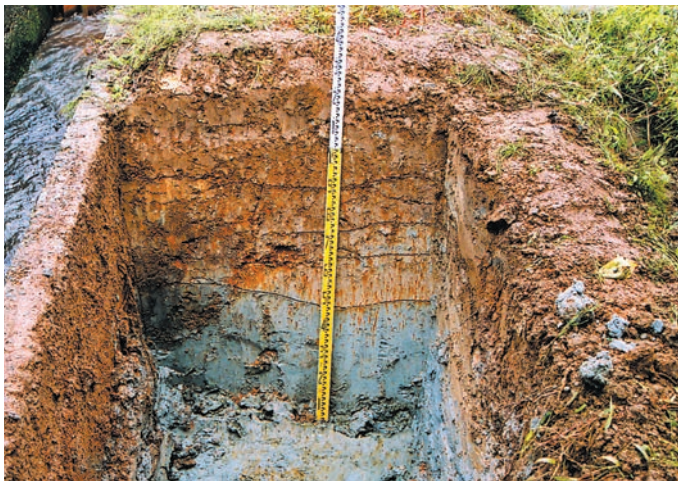
元狭口遺跡　調査風景（北東から）

元狭口遺跡　調査風景（北東から）

元狭口遺跡　調査風景（北東から）

元狭口遺跡　調査風景（南から）

元狭口遺跡　トレンチ土層断面（南から）



元狭口遺跡　トレンチ土層断面（南から）

中沢遺跡　調査地近景（北東から）

中沢遺跡　調査地近景（南西から）

中沢遺跡　１トレンチ調査風景（北東から）

中沢遺跡　１トレンチ調査風景（南西から）

中沢遺跡　２トレンチ調査風景（南西から）

中沢遺跡　２トレンチ調査風景（南西から）

中沢遺跡　１トレンチ土層断面（南西から）

中沢遺跡　２トレンチ土層断面（北東から）

鬼倉遺跡　調査地近景（北西から）

鬼倉遺跡　調査地近景（南東から）

鬼倉遺跡　４トレンチ調査風景（南東から）

鬼倉遺跡　７トレンチ調査風景（北東から）

鬼倉遺跡　９トレンチ調査風景（北西から）

鬼倉遺跡　１トレンチ土層断面（南西から）

鬼倉遺跡　２トレンチ土層断面（南西から）

鬼倉遺跡　３トレンチ土層断面（北西から）

鬼倉遺跡　4 トレンチ土層断面（南西から）

鬼倉遺跡　5 トレンチ土層断面（南西から）

鬼倉遺跡　6 トレンチ土層断面（南西から）

鬼倉遺跡　7 トレンチ土層断面（南西から）

鬼倉遺跡　8 トレンチ土層断面（南西から）

鬼倉遺跡　9 トレンチ土層断面（北西から）

鬼倉遺跡　10 トレンチ土層断面（南西から）

鬼倉遺跡　11 トレンチ土層断面（南から）

丸山遺跡周辺の空中写真

丸山遺跡　被害状況近景（北から）

丸山遺跡　調査風景（西から）

丸山遺跡　調査風景（西から）

〔4：5〕

丸山遺跡　出土遺物

花立遺跡　調査風景（南から）

花立遺跡　調査風景（南東から）

花立遺跡　調査風景（北東から）

花立遺跡　調査風景（北東から）

花立遺跡　土層断面（南東から）

花立遺跡　調査風景（南東から）

〔1：3〕

花立遺跡　出土遺物

舞台遺跡周辺の空中写真

舞台遺跡　調査地近景（北から）

舞台遺跡　調査風景（北から）

舞台遺跡　調査風景（南から）

舞台遺跡　土層断面（東から）

たて屋敷遺跡周辺の空中写真

たて屋敷遺跡周辺地　調査地近景（南から）

たて屋敷遺跡周辺地　調査風景（南から）

たて屋敷遺跡周辺地　トレンチ土層断面（南から）

たて屋敷遺跡周辺地　トレンチ土層断面（南から）

太田遺跡・横江遺跡周辺の空中写真

太田遺跡　調査風景（南西から）

太田遺跡　調査風景（北から）

横江遺跡　近景（南西から）

〔1：3〕

太田遺跡・横江遺跡　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かもしないいせきかくにんちょうさほうこくしょ
書名	平成23年度　加茂市内遺跡確認調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	加茂市文化財調査報告（23）
編著者名	伊藤秀和・立木宏明
編集機関	加茂市教育委員会　社会教育課
所在地	〒959-1392　新潟県加茂市幸町２丁目３番５号　　TEL（0256）52-0080
発行年月日	西暦　2012年11月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
馬越遺跡 周辺地	加茂市大字下条字中谷地甲1558-1番地ほか	15209		37度39分34秒	139度01分31秒	20110517	10	道路建設工事
元狭口遺跡	加茂市大字狭口字元狭口1000ほか	15209	146	37度38分21秒	139度02分04秒	20111007	2	道路建設工事
中沢遺跡	加茂市高須町２丁目８-16ほか	15209	119	37度39分40秒	139度01分31秒	20120321	11	道路建設工事
鬼倉遺跡	加茂市大字矢立新田字八反田742番地ほか	15209	116	37度40分08秒	139度01分25秒	20111109～20111110	39.4	排水路改修工事
丸山遺跡	加茂市大字上大谷字中道374番地ほか	15209	161	37度36分59秒	139度07分54秒	20111012～20111027		災害復旧工事
花立遺跡	加茂市大字下条戌396番地ほか	15209	104	37度38分52秒	139度02分11秒	20110906～0913 20111025～1027 20111114		公共下水道工事
舞台遺跡	加茂市大字上条字舞台715-7番地ほか	15209	140	37度39分38秒	139度03分48秒	20111107～20111122		公共下水道工事
たて屋敷遺跡 周辺地	加茂市大字下大谷字宮ノ下392番５	15209	157	37度36分57秒	139度07分12秒	20110526	4	携帯電話基地局建設工事
太田遺跡	加茂市大字下条字太田1078番地ほか	15209	163	37度39分05秒	139度01分45秒	20111005		分布調査
横江遺跡	加茂市大字下条字横江甲2296-1番地ほか	15209	179	37度39分16秒	139度01分55秒	20111020		分布調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
馬越遺跡周辺地					
元狭口遺跡	遺物包含地	中世			
中沢遺跡	集落跡	弥生～近世			
鬼倉遺跡	集落跡	古代			
丸山遺跡	遺物包含地	旧石器・縄文		尖頭器	縄文時代草創期
花立遺跡	遺物包含地	古代			
舞台遺跡	集落跡	中世			
たて屋敷遺跡周辺地					
太田遺跡	集落跡	古代		土師器、須恵器	
横江遺跡	遺物包含地	古代		土師器、須恵器	

加茂市文化財調査報告（23）

平成23年度

加茂市内遺跡確認調査報告書

馬越遺跡周辺地　元狭口遺跡　中沢遺跡　鬼倉遺跡　丸山遺跡
花立遺跡　舞台遺跡　たて屋敷遺跡周辺地　太田遺跡　横江遺跡

印刷年月日　平成24年11月15日
発行年月日　平成24年11月30日

発行・編集者　加茂市教育委員会
〒959-1392　新潟県加茂市幸町２丁目３番５号　　TEL　0256（52）0080

印刷所　有限会社　いとう印刷
〒959-1378　新潟県加茂市駅前４番４号　　TEL　0256（52）0696